

最近の管内総合経済動向

平成30年1月16日
中部経済産業局

最近の管内の経済動向を見ると、

- ・ 生産は、増加の動きがみられる。
- ・ 個人消費は、緩やかに持ち直している。
- ・ 設備投資は、増加している。
- ・ 公共投資は、持ち直しの動きがみられる。
- ・ 住宅投資は、おおむね横ばいとなっている。
- ・ 輸出は、持ち直している。
- ・ 雇用は、労働需給が引き締まっている。

このように、**管内の経済活動は、改善している**。

先行きは、世界経済の下振れ、各国政策の不確実性の高まり、為替の動向、中小企業の経営環境の悪化などに注視が必要。各種政策の効果が生産や投資、所得の増加につながることを期待される。

<補足>

- 総括判断の「改善している」は、平成29年7月発表(上方修正)以来、7か月連続。
- 公共投資の判断を「おおむね横ばいとなっている」から「持ち直しの動きがみられる」に上方修正。(判断変更は、平成29年10月発表(下方修正)以来、3か月ぶり。上方修正は、平成29年8月発表以来、5か月ぶり。)

- 注) 1. 比較は、断りのあるものを除き、平成29年11月実績値による。
2. 「P」は、速報値。
3. 「管内」とは、富山、石川、岐阜、愛知及び三重の5県を指す。
4. 下線部は、先月から変更した判断。

(お問い合わせ先)

中部経済産業局 総務企画部 調査課長 出村
担当: 柴田

TEL: 052-951-2723 FAX: 052-950-1763

URL: <http://www.chubu.meti.go.jp>

景況判断の推移

↑: 上方修正
→: 据え置き
↓: 下方修正

	公表年		2017年		2017年		2017年		2017年		2017年		2018年		
	公表月日		8月10日		9月12日		10月12日		11月9日		12月11日		1月16日		
	実績月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		
総括判断	改善している	→	改善している	→	改善している	→	改善している	→	改善している	→	改善している	→	改善している	→	
管内生産(総合)	増加の動きがみられる	↑	増加の動きがみられる	→	増加の動きがみられる	→	増加の動きがみられる	→	増加の動きがみられる	→	増加の動きがみられる	→	増加の動きがみられる	→	
主要業種の生産動向	◎輸送機械	増加の動きがみられる	↑	増加の動きがみられる	→	増加の動きがみられる	→	増加の動きがみられる	→	増加の動きがみられる	→	増加の動きがみられる	→	増加の動きがみられる	→
	◎はん用・生産用・業務用機械	緩やかに増加している	↑	緩やかに増加している	→	緩やかに増加している	→	緩やかに増加している	→	緩やかに増加している	→	緩やかに増加している	→	高水準で推移している	↓
	◎電子部品・デバイス	一部に増加の動きがみられる	→	一部に増加の動きがみられる	→	緩やかに増加している	↑	緩やかに増加している	→	一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに増加している	→	一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに増加している	→	一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに増加している	→
	◎電気機械	緩やかに増加している	↑	緩やかに増加している	→	緩やかに増加している	→	緩やかに増加している	→	緩やかに増加している	→	緩やかに増加している	→	高水準で推移している	↓
	◎金属製品	横ばいとなっている	→	横ばいとなっている	→	横ばいとなっている	→	横ばいとなっている	→	横ばいとなっている	→	横ばいとなっている	→	横ばいとなっている	→
	◎鉄鋼	緩やかに持ち直している	→	緩やかに持ち直している	→	緩やかに持ち直している	→	緩やかに持ち直している	→	緩やかに持ち直している	→	緩やかに持ち直している	→	緩やかに持ち直している	→
	◎ファインセラミックス	横ばいとなっている	→	横ばいとなっている	→	横ばいとなっている	→	横ばいとなっている	→	横ばいとなっている	→	横ばいとなっている	→	横ばいとなっている	→
	◎繊維・陶磁器	◎繊維弱含みとなっている ◎陶磁器弱含みとなっている	→	◎繊維弱含みとなっている ◎陶磁器弱含みとなっている	→	◎繊維弱含みとなっている ◎陶磁器弱含みとなっている	→	◎繊維弱含みとなっている ◎陶磁器弱含みとなっている	→	◎繊維弱含みとなっている ◎陶磁器弱含みとなっている	→	◎繊維弱含みとなっている ◎陶磁器弱含みとなっている	↑	◎繊維横ばいとなっている ◎陶磁器弱含みとなっている	→
消費・投資等の需要動向	◎個人消費	緩やかに持ち直している	→	緩やかに持ち直している	→	緩やかに持ち直している	→	緩やかに持ち直している	→	緩やかに持ち直している	→	緩やかに持ち直している	→	緩やかに持ち直している	→
	◎設備投資	増加している	→	増加している	→	増加している	→	増加している	→	増加している	→	増加している	→	増加している	→
	◎公共投資	持ち直している	↑	持ち直している	→	おおむね横ばいとなっている	↓	おおむね横ばいとなっている	→	おおむね横ばいとなっている	→	おおむね横ばいとなっている	→	持ち直しの動きがみられる	↑
	◎住宅投資	緩やかに持ち直している	→	緩やかに持ち直している	→	おおむね横ばいとなっている	↓	おおむね横ばいとなっている	→	おおむね横ばいとなっている	→	おおむね横ばいとなっている	→	おおむね横ばいとなっている	→
	◎輸出	持ち直している	→	持ち直している	→	持ち直している	→	持ち直している	→	持ち直している	→	持ち直している	→	持ち直している	→
	◎雇用	労働需給が引き締まっている	→	労働需給が引き締まっている	→	労働需給が引き締まっている	→	労働需給が引き締まっている	→	労働需給が引き締まっている	→	労働需給が引き締まっている	→	労働需給が引き締まっている	→

1. 鋳工業生産・出荷・在庫

生産は、増加の動きがみられる。

i. 鋳工業生産・出荷・在庫の指数(速報)

鋳工業生産の動向を指数(11月速報)で見ると、電子部品・デバイス工業、輸送機械工業、石油・石炭製品工業などが上昇したことから、前月比+1.0%と3か月ぶりの上昇となった。また、前年同月比は+5.9%と10か月連続の上昇となった。

出荷は、輸送機械工業、鉄鋼業、石油・石炭製品工業などが上昇したことから、前月比+1.0%と3か月ぶりの上昇となった。また、前年同月比は+4.6%と13か月連続の上昇となった。

在庫は、電子部品・デバイス工業、輸送機械工業などが上昇したことから、前月比+0.9%と2か月連続の上昇となった。また、前年同月比は▲8.4%と16か月連続の低下となった。

ii. 主要業種の動向

輸送機械の生産は、増加の動きがみられる。

乗用車は、海外向けが堅調であることに加え、国内向けに持ち直しの動きがみられることから、全体でも持ち直しの動きがみられる。

自動車部品は、国内完成車向けが横ばいとなっているものの、海外向けが増加していることから、全体としては緩やかに増加している。

航空機体部品・同付属品は、航空機用発動機部品に持ち直しの動きがみられることから、全体でも持ち直しの動きがみられる。

はん用・生産用・業務用機械の生産は、高水準で推移している。

金属工作機械は、国内向けが横ばい、海外向けが高水準で推移していることから、全体でも高水準で推移している。

繊維機械は、織機、紡績・準備機械ともに主力の中国をはじめアジア向けを中心に横ばいとなっている。

土木建設機械は、海外向けが堅調であるものの、国内向けが横ばいとなっていることから、全体でも横ばいとなっている。

電子部品・デバイスの生産は、一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに増加している。

集積回路は、スマートフォン向けを中心に緩やかに増加している。

液晶素子は、スマートフォン向けを中心に弱い動きとなっている。

電気機械の生産は、高水準で推移している。

開閉制御装置・機器は、国内自動車向けが緩やかに持ち直しており、海外向けも高水準で推移していることから、全体でも高水準で推移している。

内燃機関電装品は、自動車向けを中心に緩やかに持ち直している。

電動機は、海外向けが好調であることに加え、国内向けが緩やかに持ち直していることから、全体でも緩やかに増加している。

金属製品の生産は、横ばいとなっている。

アルミニウム建材は、木造住宅向けやビル向けを中心に弱含みとなっている。

ばねは、自動車向けを中心に緩やかに持ち直している。

ガス機器は、新築や買換需要で堅調であるものの、一部で弱含みとなっていることから、全体としては横ばいとなっている。

鉄鋼の生産は、緩やかに持ち直している。

鋼板は、自動車向けを中心に緩やかに持ち直している。

棒鋼・形鋼は、民間建築向けを中心に持ち直しの動きがみられる。

特殊鋼鋼材は、自動車向けを中心に緩やかに増加している。

ファインセラミックスの生産は、横ばいとなっている。

触媒担体・セラミックフィルタは、自動車向けを中心に、海外向けが堅調であるものの、国内向けが横ばいであることから、全体でも横ばいとなっている。

ガスセンサ素子は、自動車向けを中心に、海外向けは堅調であるものの、国内向けが横ばいであることから、全体でも横ばいとなっている。

繊維・陶磁器の生産

繊維は、合成繊維に動きがみられることから、全体としては横ばいとなっている。

陶磁器は、タイルに弱い動きがみられることから、全体としては弱含みとなっている。

2. 消費・投資などの需要動向

個人消費は、緩やかに持ち直している。

百貨店・スーパー販売(全店ベース)は、全体では2か月ぶりに前年を上回った。

百貨店は、催事による効果に加え、気温の低下もあって冬物衣料に動きがみられ、高額品の動きも継続したことから、全店ベース、既存店ベースともに2か月ぶりに前年を上回った。

スーパーは、衣料品が振るわなかったものの、飲食料品に動きがみられたことから、全店ベースでは2か月ぶりに前年を上回った。なお、既存店ベースでは、12か月連続で前年を下回った。

また、百貨店・スーパー販売額指数(11月速報、季節調整済み)で見ると、全体では前月比+1.5%と2か月ぶりに上昇した。

コンビニエンスストア販売(全店ベース)は、カウンター商材、中食が引き続き好調であったものの、店舗数減少の影響もあって、2か月連続で前年を下回った。

家電大型専門店販売は、通信家電、季節空調等が好調であったことから、2か月ぶりに前年を上回った。

ドラッグストア販売は、32か月連続で前年を上回った。

ホームセンター販売は、2か月ぶりに前年を上回った。

乗用車販売は、小型車が5か月連続で前年を下回ったものの、普通車が5か月ぶりに、軽自動車は8か月連続で前年を上回ったことから、全体でも2か月ぶりに前年を上回った。

設備投資は、増加している。

製造業では、生産用機械、窯業・土石製品などで増加する計画となっている。

非製造業では、運輸、卸売などで増加する計画となっている。

なお、管内主要8社の金属工作機械受注(国内向け)は、自動車工業向けが11か月ぶりに前年を下回ったものの、一般機械工業向けが3か月連続で前年を上回ったことから、全体でも4か月連続で前年を上回った。

公共投資は、持ち直しの動きがみられる。

公共工事前払金保証請負金額は、「国」、「地方公社」が前年を下回ったものの、「独立行政法人等」、「県」、「市町村」ほか前年を上回ったことから、全体でも2か月連続で前年を上回った。

住宅投資は、おおむね横ばいとなっている。

新設住宅着工戸数は、持家が7か月連続で前年を下回ったものの、貸家が2か月ぶりに、分譲が4か月連続で前年を上回ったことから、全体でも2か月ぶりに前年を上回った。

輸出は、持ち直している。

名古屋税関管内の輸出通関額(円ベース・速報)は、10か月連続で前年を上回った。品目別で見ると、「自動車」、「自動車の部分品」、「金属加工機械」などが前年を上回った。

主要地域(国)別で見ると、アジア向け、米国向けが10か月連続で、中国向けが13か月連続で、EU向けが6か月連続で前年を上回った。

雇用は、労働需給が引き締まっている。

新規求人数は、「医療、福祉」、「運輸業、郵便業」、「宿泊業、飲食サービス業」などが前年を上回ったことから、全体でも13か月連続で前年を上回った。

有効求人倍率は、前月と同値であった。

企業倒産(件数)は、3か月連続で前年を上回った。

企業倒産(件数)は、「情報通信業」が前年を下回ったものの、「小売業」、「卸売業」などが前年を上回った。

以上